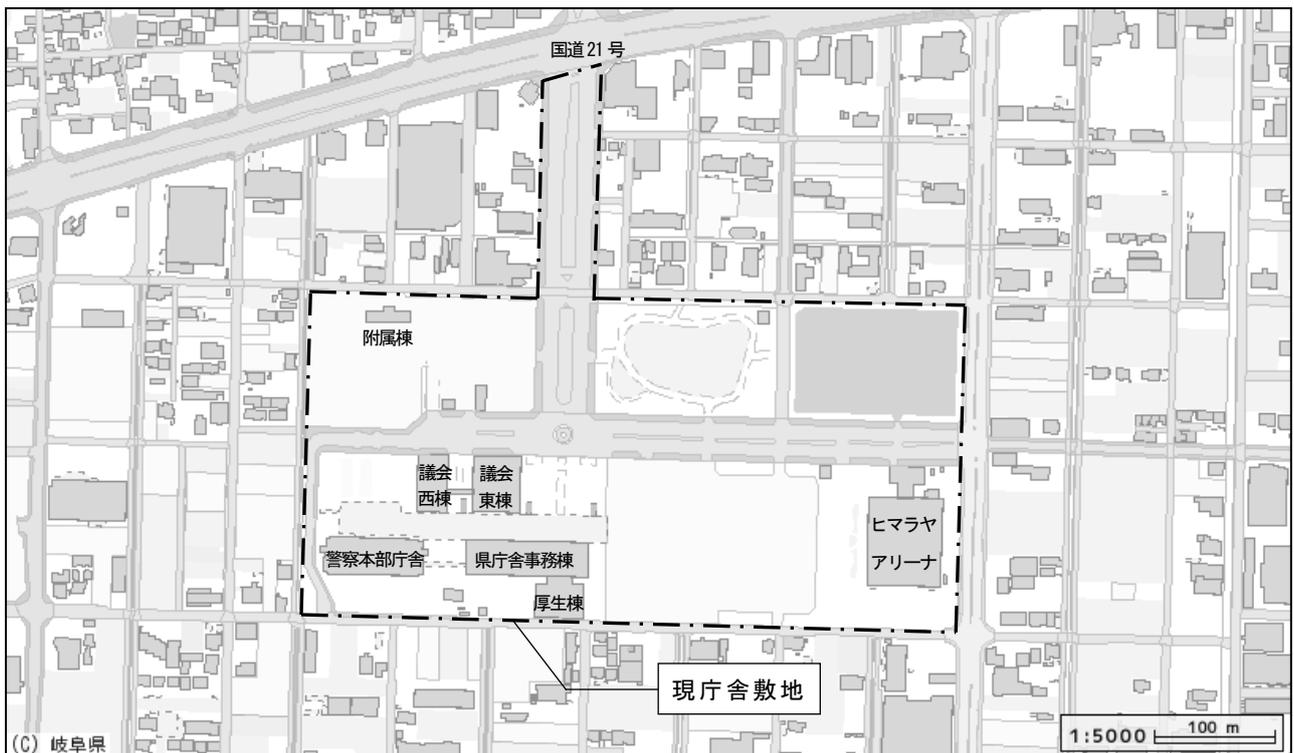


4 敷地条件

(1) 概要

新庁舎の敷地は、建設のための十分な広さが確保できること、交通アクセスや周辺における都市機能が充実していること、用地取得が不要であること及び移転に係る費用や時間が大幅に節減できること等の条件を踏まえ、現庁舎の敷地内を選定しました。

敷地条件の概要については次のとおりです。



所在地	岐阜市藪田南 地内	敷地面積	約 159,000 m ²
区域区分	市街化区域	用途地域	商業地域
建ぺい率	80%	容積率	400%
防火地域	準防火地域		

敷地条件概要

(2) 周辺地域の状況

1) 交通アクセス

当該敷地は、国道21号及び県道岐阜南濃線に接するため、岐阜市周辺の主要都市を結ぶ中核地点となっています。また、鉄道駅が近く、高速道路からの利便性に優れ、県内各地からアクセスしやすくなっています。

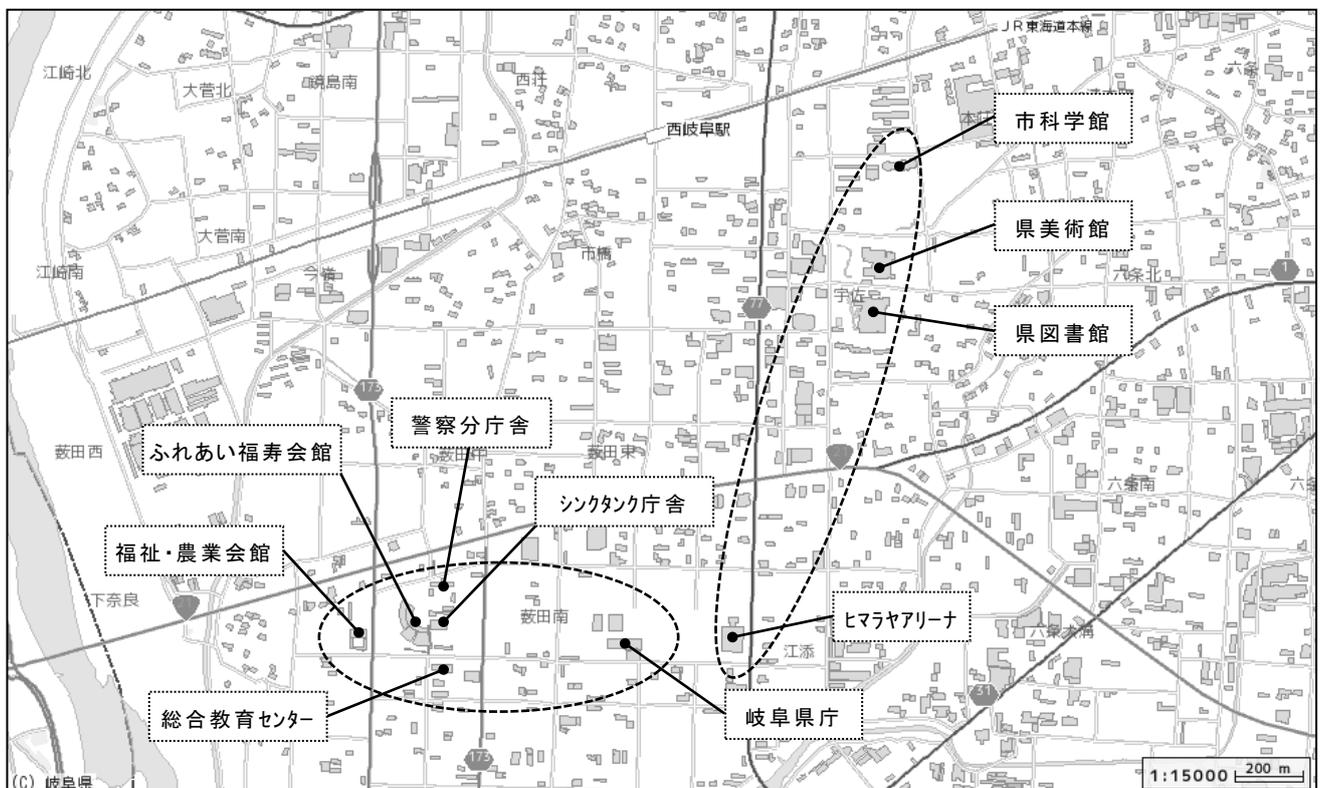
今後は、公共交通機関の充実についても検討し、来庁者及び職員の利用促進と一層の利便性向上に努めます。

2) 周辺施設

岐阜市藪田南地区周辺は、ふれあい福寿会館、福祉・農業会館、総合教育センター、シンクタンク庁舎、警察分庁舎等の県有施設の外、農協会館、医師会館、水産会館等の県関係団体施設が立地し、県の機関をはじめ各種団体の本部が集中するエリアです。

また、藪田南地区から北東の宇佐地区にかけては、ヒマラヤアリーナ、県図書館、県美術館等の文化・スポーツ施設が立地しています。

新庁舎を整備する上で、地区の個性や活力を引き出すことができるよう、各周辺施設との関わりや連携に配慮していきます。

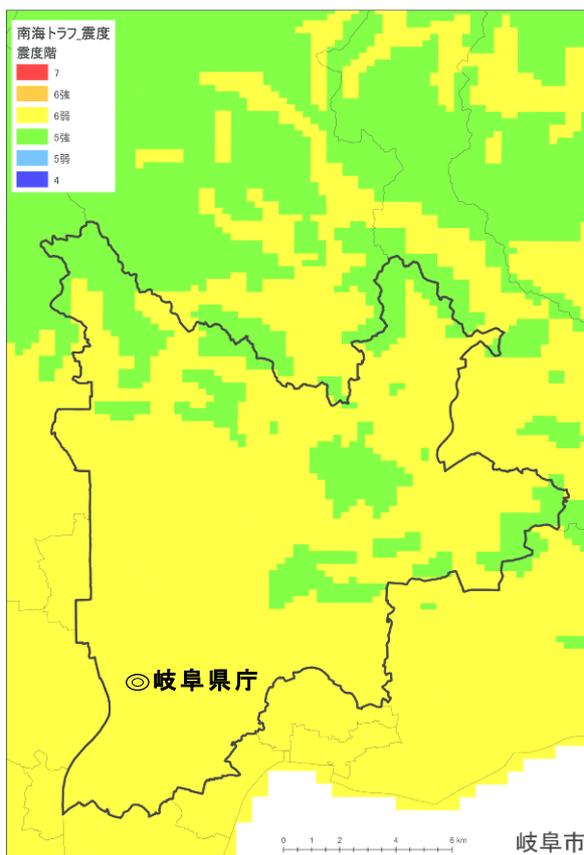


周辺地域の主な施設

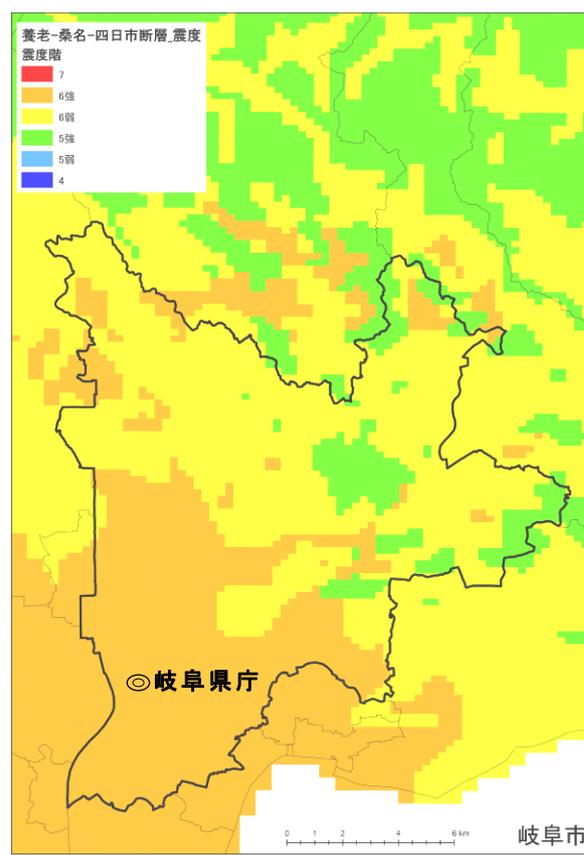
(3) 災害対策

1) 地震

本県の「平成23～24年度 岐阜県南海トラフの巨大地震等被害想定調査」によると、岐阜市では、南海トラフ巨大地震時に震度6弱、内陸の活断層（養老－桑名－四日市断層帯）による直下型大地震時に震度6強の地震が想定されています。新庁舎はこれを前提に、耐震対策を行う必要があります。



南海トラフ巨大地震
震度階マップ



養老－桑名－四日市断層帯地震
震度階マップ

2) 浸水

当該敷地は、長良川浸水想定区域内（H23.3.7国土交通省中部地方整備局告示第31号）に位置し、長良川氾濫時には2m未満の浸水が想定されています。また、昭和51年の9.12豪雨災害において、現県庁舎1階部分が浸水した経緯もあります。

新庁舎には適切な浸水対策を施すとともに、洪水発生時に周辺住民等が避難できる場所としての機能も検討します。